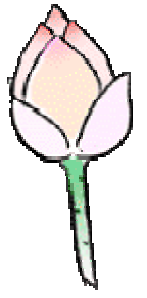


天目



ナムナムのこころ

「子供たちにも伝えたいこと」

四年前、マニ像絵画の展示でニューヨークに招かれた時、私が合掌してグラウンドゼロでお経を読んでいると、変わり者の目で見られ、勝手に写真を撮られたりもしました。また今春ある天気の良い早朝のこと。車内で信号待ちをしていると、歩道で周囲の目も気にせず太陽に向かってひたすら拝んでいる人が見えました。歩行者は冷ややかな視線でそれを見、避けるように歩いていったのが目に付きました。これらの状況をどう思いますか？

日本一の山「富士山」には年間30万人の人が登ります。その多くが御来光に合掌します。おかしな光景ですか？逆にその太陽に全くの無反応で感動しないことの方が不自然でしょう。歩道で太陽を拝んでいる人こそ敬虔な信者で信心の厚い人なのかもしれません。

物が豊かになるのと反比例して、心の豊かさが乏しくなるのをひしひしと感じます。信心も薄くなり、葬儀や法事も簡略化されてきています。しかしそんな時代だからこそ、今あらためて「お祈り」の時間を大切にしたいものです。理屈ではなく、無心に手を合わせている一時、この時こそが心の豊かさを育ててくれると信じます。

歩道での合掌には違和感を覚えても富士山では合掌してしまふ。これは単に自分の置かれた環境の違いだけです。忙しいとお彼岸やお盆でしか寺参りや墓参りに行かなくなってしまうますが、旅行でも観光でもよし、お祈りができる環境に自分の身を置いて、信心・心の豊かさを育てましょう。

本尊様の前でナムナム「合掌礼拝」

住職 青柳真元



知っていますか？ 仏様のこと

⑧ 普賢菩薩 (ふげんぼさつ)

前号のたより第15号で、釈迦三尊といえど真ん中にお釈迦様、その左右に文殊菩薩（もんじゅぼさつ）と普賢菩薩を配置するのが一般的で、さらに文殊様を見分ける一番簡単な方法は獅子に乗っているところと書きました。

今号の普賢菩薩様も一目見てすぐわかる動物「白い像」に乗っている菩薩様です。

普賢とは、

世界に普く

(あまねく)

慈悲を与え、

人々を救済す

る賢者である

と読み取るこ

とができます。この裏面に「信心」について書

きました。そんな人間の信心や心が育つてい

く様子を、やさしく見守ってください。さっているの

が普賢菩薩様なのです。

私たち人間の成長を見守ってくれ、時にはその大いなる慈悲の力で救ってくれる。これは家族に例えるならば遠く離れた田舎にいて孫の成長を心配してくれている、やさしいおばあちゃんのような仏様ですね。ということは、智慧一番の文殊菩薩がおじいちゃん……かな。



普賢菩薩像

古い掛け軸が見つかる



ちよつと

おもしろい掛け軸が発見されました。鎌倉市内にある、臨済宗瑞泉寺の御住職が骨董品店で

場で購入し、もとは栖雲寺にあったものであろうと、寄付してくださいました。摩利支天の版画の上に、江戸時代中期（1756年）の建長寺住職「海門元東（第一九七世）」の賛が書かれています。今秋の栖雲寺宝物風入れ展で公開を予定しています。

青柳雅明師 永年勤続表彰

私の師僧であり、父でもある永泰寺の青柳雅明和尚様が、先般大本山建長寺から住職勤続三十年の表彰を受けました。栖雲寺檀信徒の皆様にも、この間には大変お世話になり、本人に代わりましてお礼申し上げます。

また今後とも引き続ききよしくお願いいたします。



百年に一度の大雪

二月の大雪では、大変な目にあつた方も多いのではないのでしょうか。

標高千mを超える栖雲寺では、地元の人が経験したことのないような大雪に見舞われました。場所によつては積雪2m。雪かきを御荷担いただいた天目区の檀家様、有り難うございました。

幸いお寺には大きな被害もなく、五月の中頃には、あの大雪がまるで夢だったかの様に、全ての雪が融けました。



※坐禅会、法話、写経会、境内案内等、可能な限りお受けします。電話でお気軽にお問い合わせください。